母子分離不安から不登校となった児童への指導援助

1　はじめに

今回の事例は，母子分離不安が原因で不登校になった小学校１年生のＡ子が両親の努力と学級担任の指導援助によって，再登校できるようになったケースである。

2　問題の概要

○　入学して１週間が過ぎたころから，朝，起きるのを渋るようになり，頭痛や腹痛を訴えて登校を嫌がるようになった。

○　２週間目ころからは，起きると「お母さん，お母さん」と母親にまつわりつき「歩けない」とか「勉強はいや」などと言って，断続的に欠席する日が多くなった。

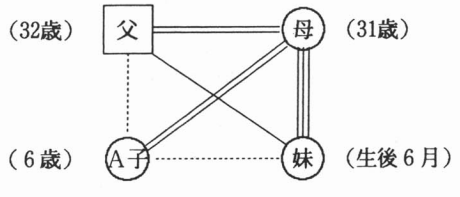
○　５月ころからは，急に赤ちゃん言葉を使ったり，できる事も「やってちょうだい」とせがむようになり，『赤ちゃん返り』が見られるようになった。

○　登校できる日は，母親の車で学校の昇降口まで行くが，すぐに戻って来て再び車に乗ってしまうことが多かった。

○　母親はＡ子を強くしかるが，Ａ子の言うがままになっている。父親はＡ子が休んでいることに対して何も言わず，無関心である。

3　Ａ子のプロフィール

(1)　家庭状況



○　父親は長距離トラックの運転手で，帰宅日が週に２日か３日である。Ａ子については，ほとんど母親任せで，かかわりが希薄である。

○　母親は，Ａ子に対してはやさしく過保護の傾向が強い。

○　Ａ子が幼稚園の年長組の時に妹が誕生した。

(2)　Ａ子に関する資料

①　生育歴

○　熟産で正常分べん

○　出産時の体重は2675g

○　幼いころから人見知りが強く，母親の後追いをすることが多かった。

○　幼稚園の時，登園を時々距否していた。外での遊びが少なかった。

○　父親とは乳児期からほとんど遊んでもらっていない。

②　諸検査の結果

○　社会生活能力テストの結果，『集団参加』が４歳程度である。

○　親子関係診断テストでは，準危険地帯で（母親の場合）溺愛型。

4　診断

(1)　妹が生まれるまでは，父親が留守のため，やさしい母親の愛情を一身に受けて大事に育てられていた。

妹が生まれてからは，大事なお母さんが，妹（赤ちゃん）にとられてしまったように思い，常に母親と一緒でないと，不安や緊